

平成13年度  
年報

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE  
北海道立文学館・(財)北海道文学館



## 目次

■文学館の歩み	1
■北海道立文学館の設立経緯	2
■目的及び事業	3
■平成13年度事業概要	
I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業	4
II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業	4
1 展覧会事業 (1) 常設展	
(2) 特別企画展等	
2 講演会・講座等事業	
III 北海道文学に関する調査研究事業	14
IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業	14
V 啓発広報事業	16
VI 刊行物の刊行事業	16
VII 北海道立文学館の管理運営受託事業	16
VIII その他の付帯事業	16
■統計・資料	
展覧会別観覧状況 閲覧室利用状況 総括表	17
資料収集状況 主な収集特別資料一覧	18
■組織及び役職員	
組織機構図 役員等の状況	20
専門委員会構成一覧 職員名簿	21
■諸会議・運営日誌	22
<付録>北海道立文学館利用規則	24

## ■ 文学館の歩み ■

年次	事 項	年次	事 項
昭和42	北海道文学館設立総会、館報1号発行、有島武郎文学展	平成元	鷗外展、財団法人北海道文学館設立胆振文学展・目で見る風土と文学、俳句誌「葦牙」創刊700号記念展、北海道女流作家第一号森田たま展、北海道川柳展、作家生活25年記念三浦綾子展（札幌、旭川）
43	文学に見る北方風物展	2	児童文学「新十津川物語」展（札幌、新十津川）、移動展・石川啄木と野口雨情展、文化情報誌「ニュースきょうどう・カムイミンタラ」展、歌誌「新墾」創刊60周年記念展、北のロマンを奏でる一渡辺淳一文学展、市町村文芸誌展一道東・道北編
44	北海道旅の文学展	3	市町村文芸誌展一道央・道南編、移動展・石森延男と室蘭の児童文学展、文学展・北海道花の歳時記、来道60年記念斎藤茂吉展、文芸誌「赤煉瓦」とその周辺展
45	伊藤整・亀井勝一郎文学展	4	設立25周年記念・有島武郎と木田金次郎展、北電文化誌「フロンティア」著名作家原稿展、文学展・北海道花の歳時記（室蘭）、北の文学風物誌展（冬の巻）、らいらっく文学賞展
46	北海道詩歌展	5	俳句誌「アカシヤ」500号記念展、札幌文学散歩展、没後25年・道立文学館着工記念伊藤整文学展、北海道詩人協会40周年記念展
47	目で見る札幌文学散歩	6	文学・北の歳時記展、文学展・札幌線沿線の旅、北の山と文学展、和田謹吾理事長死去
48	藤村における旅資料展、久保栄文学展、札幌の文学・百年展	7	澤田誠一理事長就任、北海道立文学館開館記念特別展・北の夜明け、所蔵品展・私の愛した抒情詩人たち
49	文学にみる札幌風物展、北海道女流文学展、小田観螢・人と作品展	8	特別企画展・北海道の俳句、特別企画展・久保栄と北海道、所蔵品展・船山馨の文学世界
50	札幌の作家展（戦前の巻）、戦後30年・北海道文学展、札幌の作家展（戦後の巻）、川柳に見る戦後の札幌展	9	特別企画展・森田たまと素木しづ、特別企画展・青春と文学、所蔵品展・書簡に探る作家の素顔
51	碑にみる北の文学展、林不忘・長谷川四郎兄弟展、石狩川流域文学展、歌人・山下秀之助展	10	特別企画展・北海道の短歌、特別企画展・有島武郎とヨーロッパ、企画展・吉田一穂とその時代
52	札幌の文学サークル展、文学展・北の海、札幌・戦後演劇展	11	特別企画展・夏目漱石と芥川龍之介、特別企画展・〈本〉はどこに向かうのか、所蔵品展・本庄陸男と『石狩川』
53	文学展・ふるさと窓、北海道児童文学展、さっぽろの俳句展	12	特別企画展・挿絵と装幀の小宇宙 特別企画展・「北緯五十度」の詩人たち 企画展・花咲く北の川柳展
54	札幌市資料館に館看板掲示、現代北海道短歌展、風土のなかの文学碑展、『北海道文学地図』発行	13	特別企画展・夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展 特別企画展・100年目の小熊秀雄～20世紀詩のアヴァンギャルド 企画展・映画ポスターに見る北海道の文学
55	現代北海道俳句展、北海道岬文学展、児童文学と絵日記展—石森延男・その周辺—		
56	雑誌「北方文芸」展、石森延男児童文学展、館所蔵文芸雑誌閲覧開始、北海道岬・文学展、高橋留治氏から3000余冊の詩書等寄贈、北海道文学全集展		
57	島木健作文学展、船山馨文学展、北海道・湖文学展、鮫島交魚子・加藤愛夫文学展		
58	寺田京子・宮田益子・森みつ三人展、文学展・大地と人間、にんげん坂本直行展—その絵と文学—		
59	北海道児童文学全集展、北海道演劇資料展		
60	北海道文学展示室が常設展に移行、北海道俳句展、北原白秋展、文学にみる北方風物展、更科源蔵理事長死去、『北海道文学大事典』発行、地域文化功労者賞受賞		
61	日本の文学館風景展、和田謹吾理事長就任、歌誌「原始林」40周年記念展、「石川啄木と野口雨情」文学風物展、石森延男と札幌の児童文学展、詩誌「核」30周年記念展		
62	『北海道文学百景』『北海道文学絵はがき』発行、北海道文学館歩み展、北海道文学館20周年記念祝賀会および記念展、俳句誌「水原帯」創刊40周年記念展		
昭和63	北海道歌人会創立35周年記念展、北海道新聞文学賞展、『北海道文学読本』発行、没後30年久保栄文学展、近代日本の文豪—森		

## ■ 北海道立文学館の設立経緯 ■

- 昭和62年9月 北海道立文学館（以下、文学館と略）期成会が設立される。
- 昭和63年11月 財団法人北海道文学館設立が認可される。
- 平成2年3月 文学館設置調査費が議決される。
- 平成2年8月 文学館設置検討委員会が設置される。
- 平成3年3月 文学館設置検討委員会報告書が作成される。
- 平成3年10月 文学館基本構想が策定される。
- 平成4年2月 札幌市中央区中島公園内道有地が建設予定地に決定する。
- 平成4年4月 構想設計コンペ審査委員会が開催される。
- 平成4年11月 基本設計がまとまる。
- 平成5年1月 実施設計がまとまる。
- 平成5年7月 建設工事に着工。
- 平成6年12月 建設工事が完成。
- 平成7年1月4日 北海道立博物館条例の一部を改正する条例が施行される。  
北海道立文学館利用規則が施行される。
- 平成7年4月1日 財団法人北海道文学館が北海道教育委員会より文学館の管理運営を委託される。平成7年度委託契約書締結。
- 平成7年9月22日 開館記念式典が挙行される。
- 平成7年9月23日 一般公開される。

## ■ 目的及び事業 ■

### 北海道立博物館条例（抄）

第1条 北海道における教育、学術及び文化の振興を図るため、北海道立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
北海道立北方民族博物館	網走市
北海道立文学館	札幌市

第5条 教育委員会は、公共団体又は公共的団体に対し、博物館の管理を委託することができる。

### 財団法人北海道文学館寄附行為（抄）

（昭和63年11月1日 北海道教育委員会許可  
平成7年2月2日 北海道教育委員会一部変更認可  
平成7年4月7日 北海道教育委員会一部変更認可）

（目的）

第3条 この法人は、北海道にゆかりのある文学資料を収集保存し、広く道民の利用に供するとともに北海道の風土に根ざした文学の振興に必要な事業を行い、もって北海道の文化の創造と発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、北海道の区域内において次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 北海道にゆかりのある文学資料を収集、整理、保存し、及び道民の利用に供すること。
- (2) 文学に関する展覧会、文芸講演会、文芸講座等を開催すること。
- (3) 文学に関する調査研究を行うこと。
- (4) 文学愛好団体等の活動に対し支援すること。
- (5) 道民の文学に対する関心を高めるため啓発広報活動を行うこと。
- (6) 文学に関する各種刊行物を編集及び刊行すること。
- (7) 北海道教育委員会の委託を受けて、北海道立文学館の管理運営を行うこと。
- (8) 前各号に掲げる事業に附帯する事業。

### 北海道立文学館利用規則（抄）

（北海道教育委員会規則平成7年1月4日施行）

（文学館の目的）

第1条の2 北海道立文学館（以下「文学館」という。）は、文学に関する書籍、原稿、書簡、文献、写真その他の資料及び文学者の遺品等（以下「文学資料」という。）を収集し、保存し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする。

（文学館の事業）

第1条の3 文学館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 1 文学資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 文学館が収集した文学資料を閲覧に供すること。
- 3 文学に関する展覧会、講演会、講座、映画鑑賞会その他の催し（以下「文学に関する催し」という。）を開催し、及び他の行うそれらの催しに協力すること。
- 4 一般公衆に対して、文学資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- 5 特別展示室又は講堂（以下「特別展示室等」という。）を文学に関する催しの利用に供すること。
- 6 文学及び文学資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 7 文学資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 8 文学に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書を作成し、及び配布すること。
- 9 他の文学館、図書館、美術館、博物館、研究機関等と緊密に連携し、及び協力し、刊行物及び情報の交換、文学資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 地域における学校、図書館、公民館等の教育又は文化に関する諸施設が行う文学に関する活動を援助すること。
- 11 その他文学館の目的を達成するために必要な事業

## ■ 平成13年度事業概要 ■

### I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料） 5,435点
- 購入図書・雑誌 2,069点
- その他の購入特別資料 218点
- レプリカ作成・VTR、テープ、CD 8点

（別掲の統計・資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存 カード作成及び収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等  
閲覧 利用者 延べ4,127人

### II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

#### 1 展覧会事業

##### (1) 常設展「北海道文学の流れ」

会期 通年  
会場 北海道立文学館常設展示室  
入場者 8,942人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、常設展示室内に開設された特設コーナーでは「色紙に見る作家の魅力」をテーマに、当館が収蔵している諸作家の色紙を展示した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔 〕内は監修者名を示す。

##### 〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・S・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在住期の足跡を概観した。

##### 〈北海道文学の流れ—明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

##### \* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

##### \* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

##### \* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか

\* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

\* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

\* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

\* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）—吉屋信子、宮本百合子、橋外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ—昭和前期〉〔西村信〕

\* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

\* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

\* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

\* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

\* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ—昭和後期〉〔神谷忠孝〕

\* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

\* さまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

\* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

\* さまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

\* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

\* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔永井浩〕

\* 草創期

児玉花外、高村光太郎、三木露風、宮沢賢治、北原白秋

\* 生成期

更科源蔵、吉田一穂、左川ちか、猪狩満直、鈴木政輝、加藤愛夫、和田徹三ほか



\* 戦争と詩

百田宗治、今井鴻象、鷺巢繁男、三谷木の実、牧章造ほか

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

\* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

\* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

\* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

\* アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

\* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

\* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

\* 花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか

\* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

\* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、  
田中五呂八ほか

\* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

\* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

\* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

\* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

\* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 企画展・特別企画展

●特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～」

会 期 平成13年6月30日（土）～8月5日（日）（32日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 5,004人

特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～」は2005年に生誕200年を迎えるアンデルセンの業績を称えて、世界各国でもたれる記念事業の一つとして実施された。

展示会では、アンデルセンの故郷デンマークのオーデンセ市アンデルセン博物館、オーデンセ大学アンデルセンセンターの協力と児童文学者松井直氏の監修のもと、これまでに出版されたアンデルセンの童話や絵本を中心に、選りすぐりの絵本原画と、アンデルセンの初版本やその遺品などが展示された。また角野栄子氏（童話作家）、佐藤宗子氏（千葉大学助教授）、押野武志氏（北海道大学助教授）を迎えての記念フォーラム「現代に生きるアンデルセンの心」、サンクンガーデンコンサート「モリン・ホールが奏でるメルヘンの響き」も実施され、展覧会とあわせて、好評のうちに終了した。

●特別企画展「100年目の小熊秀雄」

会 期 平成13年8月25日（土）～10月8日（日）（39日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 1,137人

詩人・小熊秀雄の生誕100年を記念したこの特別企画展は、「原風景……海」「メディア・小熊秀雄」「アーティスト・小熊秀雄」「自由への飛翔」「死の前後」「魂のリレー」の6コーナーを通じて、アヴァンギャルド精神あふれるマルチな表現者としての小熊の姿をアピールした。詩人という肩書きに収まらない文学実践、また現代に生きる我々にも共感を与える先見性など、新しく紹介された小熊秀雄の魅力は、それが生誕100年を過ぎた今日においても十分価値ある仕事であったことを物語っていた。また、今回の展覧会に併せて作成した図録も、従来以上に好評であった。

(企画展)

●企画展「映画ポスターに見る北海道の文学」

会 期 平成13年4月28日(土)～6月10日(日)(39日間)  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 1,653人

映画の歴史を振り返るとき、原田康子原作の「挽歌」に見られるように、北海道を舞台にした映画や道内ロケ作品が数多く撮影されており、名作として人々の記憶に残っているものも少なくない。本展では、北海道ゆかりの映画ポスターを中心にちらし、シナリオ、写真など約200点を展示し、北海道の文学と歴史に目を向けながら、文学と映画の魅力を紹介した。また、会期中には「火地の冬のなかまたち」「旅路」「ユーパロ谷のドンベーズ」など北海道を舞台に制作された映画の上映会も実施され、好評を得た。

※企画展「占領下の子ども文化〈1945～1949〉展」

～メリーランド大学所蔵プランゲ文庫『村上コレクション』に探る～

会 期 平成13年10月27日(土)～平成13年11月18日(日)(19日間)  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 1,831人

この企画展では、連合国軍統治下の日本で発行された出版物から、主に子どもたちを対象とした雑誌、図書、マンガ、新聞などを中心に解説を加えて約500点を展示した。いずれも、当時の連合国軍総司令部が検閲のために収集し、その後アメリカ・メリーランド大学に保管されていたものである。会期中には、札幌で開催された日本児童文学学会の団体観覧もあり、また道内のマスメディアがたびたび取り上げたこともあって、市民の高い反響を得た。時節柄、戦争と平和を考える機会にもなったとの感想も得られた。

※企画展「賢治を彫る～畑中純の版画世界～」

会 期 平成13年12月1日(土)～12月16日(日)(14日間)  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 327人

畑中純氏は、漫画家として第10回漫画家協会優秀賞を受賞するなどの活躍の一方、版画家としても長いキャリアを持つ。今回開催された企画展では3,000点に及ぶ氏の版画作品から、宮沢賢治の作品にテーマを採ったものを中心に、伊藤整関連の作品も加え、大小60点を超える版画を展示した。もとなつた作品の文学性をさらにイメージ豊かにふくらませる畑中版画の世界を、来場した方々は存分に味わい、楽しんでいた。

※企画展「Visual Poetry 2002 in 札幌<sup>プラス</sup>」

会 期 平成13年3月16日(土)～4月7日(日)(23日間)  
会 場 北海道立文学館特別展示室  
入場者 381人

同展実行委員会(委員長・高橋昭八郎氏)と(財)北海道文学館の共催として実施された企画展「Visual Poetry 2001 in 札幌<sup>+</sup>」(ヴィジュアル・ポエトリイ～見る詩、あるいは視覚詩)では、清水俊彦、藤富保男、高橋昭八郎など国内外から5ヵ国8人の詩人が作品を出品した。またヴィジュアル・ポエトリイ以外の造形の分野からも造形、陶芸など多くの出品があり、その多彩な構成は多くの観覧者の関心を集めた。

(3) ファミリー文学館

●夏休みファミリー文学館「ぼくも・わたしも絵本作家」(ワークショップ)

会 期	平成13年8月7日(火)～8月10日(金)(4日間)
会 場	北海道立文学館講堂
講 師	手作り絵本サークル「わらべの会」
参加者	304人

好評につき3年目の開催となった手作り絵本のワークショップ「ぼくも・わたしも絵本作家」は、本年も参加する子どもたちが自ら主役となって世界に一つしかない自分だけの手作り絵本をつくることを目的として実施した。

手作り絵本サークル「わらべの会」の皆さんに指導のもと、小学校3、4年生の部、5、6年生の部とに分かれ、オリエンテーションを含めそれぞれ4日間の日程でオリジナル絵本の完成をめざした。また、完成した作品は冬休みファミリー文学館「真冬のドキドキ展示室」にあわせて展示された。

●冬休みファミリー文学館「真冬のドキドキ展示室」

会 期	平成14年1月12日(土)～1月27日(日)(14日間)
会 場	北海道立文学館特別展示室
入場者	1,087人

今年度の冬休みファミリー文学館は「真冬のドキドキ展示室」と題して手作り絵本展(夏休みファミリー文学館の完成品と市内で手作り絵本に取り組んでいる作家の皆さんの作品)、手作り紙芝居展、『ゆきおとこのバカンス』絵本原画展の3コーナーを有機的に結んだ展覧会として実施した。また、展示室内に特設のステージを作り、展示期間にあわせて数々のイベントを持ったことは、新しい展示室の使い方として示唆に富むものであった。

(4) わくわく・子どもランド

※～わくわく～こどもランド

会 期	平成12年5月～平成13年3月
会 場	北海道立文学館講堂
参加者	765人
出 演	人形劇団「豆の木」、「おはなしなあに」ほか

わくわく・子どもランドは、平成13年5月から平成14年3月まで、毎月第2土曜日を中心に催しを行った。内容も、絵本読み聞かせ、パネルシアター、ボードビル、人形劇、腹話術などバラエティーに富んだものを、地域のボランティアサークル等の協力で実施でき、毎回多くの子どもたちや付き添いのご両親に楽しんでいただくことができた。

## 2 講演会・講座等事業

### (1) 文芸講演会

- 演 題 「北海道とフェリーニ」  
講 師 四方田犬彦（明治学院大学教授）  
日 時 平成13年 5月20日（日） 午後 2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 81人
  
- 演 題 「『大正』再考～菊地寛という回路～」  
講 師 日高昭二（神奈川大学教授）  
日 時 平成13年 9月15日（土） 午後 2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 53人

### (2) 文芸セミナー

- 演 題 「人魚をめぐる～日本の人魚と西洋の人魚～」  
講 師 高橋宣勝（北海道大学教授）  
日 時 平成13年 7月 7日（土） 午後 2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 58人
  
- 演 題 「占領検閲下の子ども出版物」  
講 師 谷 暎子（北星学園大学教授）  
日 時 平成12年11月 3日（土） 午後 2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 63人
  
- 演 題 「北辺に生きる」  
講 師 菅原政雄（作家）  
日 時 平成14年 1月19日（土） 午後 2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 46人
  
- 演 題 「〈視る詩〉への招待」  
講 師 平原一良（北海道文学館事業課長）  
日 時 平成14年 3月17日（日） 午後 2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 20人

(3) 文芸講座等

※「映画ポスターに見る北海道の文学」関連映画上映会

上映作品 「大地の冬のなかまたち」「白い馬」「木を植えた男」「旅路」  
日 時 平成13年5月3日(木)、4日(金)、6日(日)、13日(日) 午後1時30分  
会 場 北海道立文学館講堂  
入場者 100人

※文学館児童文化フォーラム「現代に生きるアンデルセンの心」

講 演 「アンデルセンの目」 講師 角野栄子(童話作家)  
パネルディスカッション 「現代に生きるアンデルセンの心」  
パネリスト 角野栄子(童話作家)、佐藤宗子(千葉大学助教授)、押野武志(北海道大学助教授)  
司 会 柴村紀代(藤女子大学講師)  
日 時 平成13年7月8日(日) 午後1時  
会 場 ホテルライフオーブ札幌  
聴講者 135人

※「サンクンガーデン・コンサート」

出 演 嵯峨治彦(馬頭琴奏者)、田中孝子(童話朗読)  
日 時 平成13年7月20日(金) 午後4時  
会 場 北海道立文学館サンクン・ガーデン  
来場者 162人

※「特別展 100年目の小熊秀雄 講演テープを聞く会」

日 時 平成13年9月6日(金) 午後2時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 25人

※緊急企画「《小熊秀雄》を語るつどい」

パネリスト 八子政信(書誌研究家)、原子修(詩人・札幌大学教授)、斉藤征義(詩人)、  
工藤正廣(詩人・北海道大学教授)、神谷忠孝(北海道文教大学教授)、  
米山将治(詩人)、青柳文吉(当館事業課主査)  
司 会 平原一良(当館事業課長)  
日 時 平成13年10月6日(金) 午後4時  
会 場 北海道立文学館講堂  
聴講者 26人

※「畑中純・トーク&賢治朗読」

講師 畑中純（漫画家・版画家）  
日時 平成13年12月15日（金） 午後2時  
会場 北海道立文学館特別展示室  
聴講者 28人

※「白鳥洋一・自作を語る」

講師 白鳥洋一（画家・絵本作家）  
日時 平成14年1月14日（月） 午後2時  
会場 北海道立文学館講堂  
聴講者 12人

(4) 映像鑑賞のつどい（会場は北海道立文学館講堂）

●作品名 「姉妹」（家城巳代治監督 1955年）  
日時 平成13年4月22日（日） 午後2時  
入場者 84人

●作品名 「樺太1945年夏 氷雪の門」（村山三男監督 1974年）  
日時 平成13年6月3日（日） 午後2時  
入場者 81人

●作品名 「地の涯に生きるもの」（久松静児監督 1960年）  
日時 平成13年10月7日（日） 午後2時  
入場者 96人

●作品名 「新選組」（佐々木康監督 1958年）  
日時 平成13年12月2日（土） 午後2時  
入場者 80人

●作品名 「書を捨てよ町へ出よう」（寺山修司監督 1971年）  
日時 平成14年2月12日（日）  
入場者 87人

(5) ロビー・コンサート

※「詩とジャズとの出会い」

日時 平成13年6月23日（土） 午後6時30分  
出演 熊谷ユリヤ（詩人・札幌大学教授）、野坂政司（詩人・北海道大学教授）、  
斉藤征義（詩人）、Baker Street  
入場者 71人

※「ホワイトコンサート in 札幌2001」

日 時 平成13年12月1日(土) 午後6時30分  
 出 演 星井清、榎本裕之、北林隆(以上、ギタリスト)  
 入場者 95人

※「お話とチェンバロ」

日 時 平成13年12月22日(土) 午後6時  
 会 場 北海道立文学館地階ロビー  
 出 演 木村雅信(作曲家)  
 入場者 50人

(6) ウィークエンド・カレッジ

※文学、芸術及び隣接諸分野に体系的にふれながらも、さらに高度な専門性を持つ内容を継続的に学習する場として開講している。

日 時 平成13年5月26日(土)～平成14年3月24日(日)  
 原則として各月第2、第4土曜、日曜に開講する。

【内 容】

(前 期)

教 科	科 目	講 師
文学	時代小説の世界 北海道の小説を読む 〃	木村順治(北海道工業大学講師) 神谷忠孝(北海道文教大学教授) 押野武志(北海道大学助教授)
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎(ロシア文学者) 工藤とも子(札幌大谷短期大学講師)
文化論	現代アート散策	柴橋伴夫(美術評論家)
特別講座	20世紀の映像表現論 視聴覚メディア表現論 マイノリティの言語と文化	中澤千磨夫(北海道武蔵女子短期大学教授) 野坂政司(北海道大学教授) 津曲敏郎(北海道大学教授)
ワークショップ	札幌俳句吟行	辻脇系一(俳句作家)

(後 期)

教 科	科 目	講 師
文学	北海道の小説を読む 実践としての現代詩 絵本論を学ぶ	神谷忠孝(北海道文教大学教授) 押野武志(北海道大学助教授) 笠井嗣夫(詩人・評論家) 柴村紀代(藤女子大学講師)
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎(ロシア文学者) 工藤とも子(札幌大谷短期大学講師)
文化論	現代アート散策 アイヌ文化像をとらえ直す	柴橋伴夫(美術評論家) 奥田統己(札幌学院大学助教授)
特別講座	マイノリティの言語と文化Ⅰ マイノリティの言語と文化Ⅱ 映画に見る20世紀北海道 インターネットと文学	工藤正廣(北海道大学教授) 青柳文吉(北海道文学館事業課主査) 中澤千磨夫(北海道武蔵女子短期大学教授) 野坂政司(北海道大学教授)
ワークショップ	短歌実践のつどい 川柳創作のつどい	村井宏(歌人) 斉藤大雄(川柳作家)

(受講者数：893人)



### III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。(いずれも国内)

- 企画展「映画ポスターにみる北海道の文学」関連資料調査
- 特別企画展「100年目の小熊秀雄」関連資料調査
- 寺山修司関連資料調査
- 中沢茂旧蔵資料調査
- 特別企画展・企画展の図録・リーフレット作成に要する調査

### IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主催名義の使用を承認して支援した。

- 日本児童文学者協会北海道支部  
「児童文学学校」  
(原則として4～3月の第1、第3木曜日に開校 北海道立文学館講堂)
- 星座の会  
文学講演会(2回)  
(平成13年5月12日、10月20日 北海道立文学館講堂)
- 北海道近代文学懇話会  
文芸講演会(2回)  
(平成13年7月1日、平成14年2月2日 北海道立文学館講堂)
- 日本聞き書き学会  
「聞き書き講座」(2回)  
(平成13年7月8日、10月21日 北海道立文学館講堂)
- 「北の詩精神」実行委員会  
「誌の朗読とギター演奏」  
(平成13年7月17日 北海道立文学館講堂)
- 川柳「時の風」  
「川柳セミナー」  
(平成13年8月28日 北海道立文学館講堂)
- 斎藤茂吉記念中川町短歌フェスティバル実行委員会  
「斎藤茂吉記念第8回中川町短歌フェスティバル2001」  
(平成13年9月14日、15日 中川町山村開発センター)
- NHK文化センター松井教室  
「北海道ゆかりの文学を読む」  
(平成13年10月14日 北海道立文学館講堂)
- 山の手図書館おはなしかご  
「大人が楽しむおはなし会」  
(平成13年10月31日 北海道立文学館講堂)

- 日本詩人クラブ  
「講演と自作詩朗読の午後」  
(平成13年11月4日 北海道立文学館講堂)
- 絵本・児童文学研究センター  
「第6回文化セミナー 『児童文化の中の声と語り』」  
(平成13年11月12日 小樽市民会館)
- 「ゆるりら森の仲間たち」実行委員会  
「ゆるりら森の仲間たち～たかたのりこ原画展～」  
(平成14年2月16日～3月3日 14日間 北海道文学館特別展示室)
- 北海道読書アドバイザークラブ  
「第14回読書サロン」  
(平成14年3月28日 北海道文学館講堂)

#### V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作、発行。
- 広報誌「サンクンガーデン」第12号（平成13年10月）、第13号（平成14年3月）の編集発行。
- ※「北海道文学館報」第54号（平成13年7月）、第55号（平成13年12月）の発行。

#### VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン童話・絵本原画展～」図録の刊行
- 特別企画展「100年目の小熊秀雄」図録の刊行
- 企画展「Visual Poetry 2002 in 札幌 +」図録の刊行
- 「2001年度 資料情報と研究」の刊行

#### VII 北海道立文学館の管理運営事業

寄附行為第4条第7号による道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に取り交わされた委託契約（4月1日締結）に基づき、適切に行った。

#### VIII その他の付帯事業

- 博物館学芸員実習生の受け入れ及び実習指導  
平成13年9月11日（火）～9月21日（金）にかけて（計10日間）、北海道武蔵女子短期大学学生（3人）、帯広大谷短期大学学生（1人）に対し行った。

#### ※古書バザール

平成13年9月15日（土）、16日（日）、文学館1階ロビーで実施。

- ・ミニ古書市は地階にて通年実施。ともにチャリティーバザール実行委員会が運営。

(※印の事業は財団法人北海道文学館の独自企画のものを示す)

## ■ 統計・資料 ■

### 展覧会別観覧状況

区 分	常設展	特 別 企 画 展		企画展	計	企 画 展			ファミリー文学館	
	北海道文学の流れ	夢の世界のおくりもの	100年目の小熊秀雄	映画ポスターに見る北海道の文学		占領下の子ども文化	賢治を彫る	Visual Poetry 2002 in 札幌+	ぼくも・わたしも 絵本作家	ドキドキ 展示室
開催日数	300日	32日	39日	39日	300日	19日	14日	23日	5日	14日
観覧者総数	8,942人	5,004人	1,132人	1,653人	16,736人	1,831人	327人	381人	304人	1,087人
有 個 人	一 般	2,822	2,355	366	480	6,023				
	大学生	205	188	21	23	437				
	高校生	164	43	2	25	234				
	小中生	1,869	325	5	141	2,340				
	小 計	5,065	2,911	349	669	9,034				
料 団 体	一 般	1,708	823	378	417	3,326				
	大学生	183	90	59	34	366				
	高校生	77	25	2	—	104				
	小中生	—	178	3	—	181				
小 計	1,968	1,116	442	451	3,977					
免 除	1,914	977	301	533	3,725					
合 計	8,942	5,004	1,137	1,653	16,736					

※ 小中高生は、常設展及び企画展は無料。

### 閲覧室利用状況

区 分	人数・件数	1日平均
開 室 日 数	300日	
利 用 者 数	4,127人	13.8人
レファレンス件数	179件	0.6件
資料閲覧件数	212件	0.7件

### 事業種別来館状況（総括）

	区 分	利用者数
受 託 事 業	展覧会事業	16,736人
	閲覧事業	4,127
	講演会・セミナー事業	322
	文芸映画上映会事業	682
	その他の教育普及事業	1,643
財団独自事業		4,542
計		28,052

## 資料収集状況

区 分	購入点数	受贈点数	受託点数	特別資料内訳		
				区 分	購 入	受 贈
図書	723	1,229	0	原稿	150	12
道内雑誌	8	2,079	0	書簡	23	8
道外雑誌	1,338	2,092	0	色紙・短冊	0	1
CD-ROM	0	0	0	その他	45	10
ビデオテープ	4	1	0	計	218	31
特別資料	218	31	0			
レプリカ	3	0	0			
計	2,292	5,436	0			

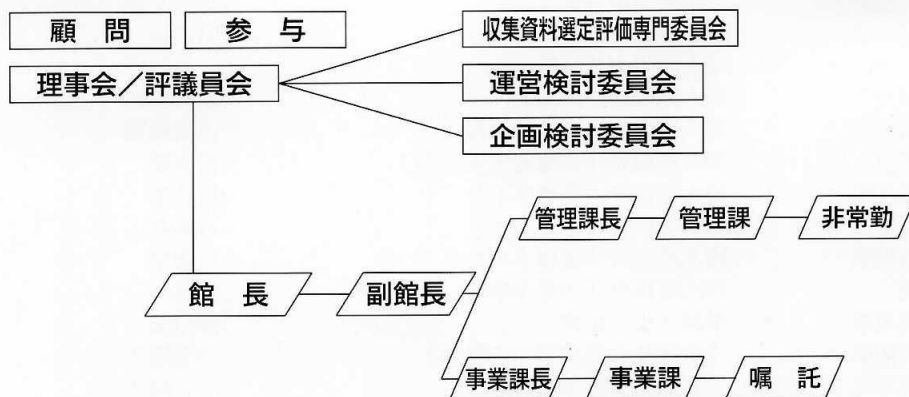
## 主な収集特別資料一覧

種 別	形 態	名 称	作 者
その他	絵画	あきあぢのコンベ	木田金次郎
その他	絵画	ホリカッパ川下流 アイヌの遺蹟多し	木田金次郎
原稿	原稿用紙	鮭のコンベ鱈	木田金次郎
原稿	コピー	本庄陸男全集第4巻解説	小笠原克
書簡	便箋	宇野浩二宛書簡	島木健作
版画		「銀河鉄道の夜」	畑中純
版画		「どんぐりと山猫(1)」	畑中純
版画		「猫の事務所」	畑中純
版画		「どんぐりと山猫(2)」	畑中純
版画		「ゼロ弾きのゴーシュ」	畑中純
版画		「風の又三郎」	畑中純
版画		「月夜の電信柱」	畑中純
版画		詩「岩手山」	畑中純
版画		「若い詩人の肖像」海に見える街	畑中純
版画		「若い詩人の肖像」小樽の街角	畑中純
版画		「若い詩人の肖像」伊藤整と梶井基次郎	畑中純
版画		「雪明かりの路」	畑中純
版画		「雪明かりの路」林檎園の六月	畑中純
原稿	原稿用紙	病間録	島木健作
書簡		森山啓宛書簡	島木健作
書簡	便箋	久保守小品展案内状	久保守
ポスター		「伽椰子のために」ポスター	李恢成
地図		「大日本職業別明細図 札幌市」	東京交通社
地図		「大日本職業別明細図 岩内町市街図」	東京交通社
地図		「大日本職業別明細図」(道南地方)	東京交通社
地図		「瀬棚町案内図」	安田俊平
地図		「懐かしの瀬棚旧地図」	林印刷
書簡	便箋	北海道文学館宛	伊藤礼
葉書	官製葉書	北海道文学館宛	中山周三
原稿	コピー	「中沢茂 逝く」	小笠原克
写真(帖)		中野重治写真	中野重治
書簡	便箋	北海道文学館宛書簡	木原直彦

種 別	形 態	名 称	作 者
視覚詩作品		「うぬぼれかがみ」	池澤夏樹
視覚詩作品		DIPHTHONGE 1 + 2	Josef Linschinger
写真(帖)		(更科源藏肖像写真)	更科源藏
色紙	色紙	MOW MI KOTKU	町田純
原稿	コピー	同人誌紹介「花林」	三井廸子
原稿	コピー	同人誌紹介「直線」	樋口游魚
原稿	原稿用紙	同人誌紹介「川柳時の風」	吉田泉陽
原稿	コピー	同人誌紹介「北海道民主文学」	松木新
原稿	原稿用紙	同人誌紹介「原始林」	村井宏
原稿	原稿用紙	同人誌紹介「こなゆき」	石井有人
原稿	原稿用紙	同人誌紹介「まほうのえんぴつ」	佐藤菜
原稿	便箋	同人誌紹介「山音文学」	堀真
原稿	原稿用紙	弔辞(小笠原克)	澤田誠一
原稿	原稿用紙	『全通北海道文学への私論』	小笠原克
原稿	原稿用紙	“またふたたびの道へ”	小笠原克
書籍	便箋	瀬田恭一宛書簡	小笠原克
書籍	便箋	瀬田恭一宛書簡	小笠原克
葉書	便箋	瀬田恭一宛書簡	小笠原克
葉書	便箋	瀬田恭一宛書簡	小笠原克
原稿	原稿用紙	伊藤整詩稿「風」	伊藤整
原稿	原稿用紙	伊藤整詩稿「月夜にめぐり逢ふ」	伊藤整
原稿	原稿用紙	伊藤整詩稿「九月-NよNよ」	伊藤整
原稿	原稿用紙	伊藤整詩稿「詩にかへる」	伊藤整
書簡	原稿用紙	鷺巣繁男宛書簡	真壁仁
原稿	原稿用紙	試写会のあとで	長谷川四郎
原稿	原稿用紙	忘れものについて	長谷川四郎
原稿	原稿用紙	専門家とファン	岡田三郎
原稿	原稿用紙	伊藤整全集解説	瀬沼茂樹

## ■ 組織及び役職員 ■

### ■ 組織機構図



### ■ 財団法人北海道文学館役員等の状況

#### <理事・監事>

役職名	氏名	就任年月日
理事長	澤田誠一	H12. 5. 30
副理事長	河邨文一郎	H12. 5. 30
副理事長	園田夢蒼花	H12. 5. 30
副理事長	木原直彦	H12. 5. 30
副理事長	小杉捷七	H12. 5. 30
常務理事	安藤孝次郎	H12. 5. 30
理事	朝倉賢	H12. 5. 30
理事	神谷忠孝	H12. 5. 30
理事	亀井秀雄	H12. 5. 30
理事	木村敏男	H12. 5. 30
理事	木村真佐幸	H12. 5. 30
理事	工藤欣彌	H12. 5. 30
理事	小檜山博	H12. 5. 30
理事	高橋揆一郎	H12. 5. 30
理事	谷口亜岐夫	H12. 5. 30
理事	辻脇系一	H12. 5. 30
理事	永井浩	H12. 5. 30
理事	原子修	H12. 5. 30
理事	村井宏	H12. 5. 30
理事	山名康郎	H12. 5. 30
監事	比良信治	H12. 5. 30
監事	斎藤大雄	H12. 5. 30

#### <顧問>

伊藤 義郎 坂野上 明 高山 亮二 堂垣内尚弘  
 長野 京子 原田 康子 堀 寛 山口 昌男

#### <参与>

上西 晴治(作家) 岡澤 康司(俳人) 小林 孝虎(歌人)  
 重森 直樹(作家) 高橋 和光(歌人) 高畠 二郎(評論)  
 樋口 游魚(俳人) 平山 廣(文学研究)

#### <評議員>

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
東 延江	H12. 5. 30	桜井 健治	H12. 5. 30	中島 洋	H12. 5. 30
新井 章夫	H12. 5. 30	佐藤 庫之介	H12. 5. 30	中山 昭彦	H12. 5. 30
飯塚 優子	H12. 5. 30	塩見 一釜	H12. 5. 30	永田 富智	H12. 5. 30
伊東 廉	H12. 5. 30	柴村 紀代	H12. 5. 30	新妻 博	H12. 5. 30
井上 久志	H12. 5. 30	菅原 政雄	H12. 5. 30	野坂 政司	H12. 5. 30
大川 佐稚子	H12. 5. 30	杉野 一博	H12. 5. 30	萩原 貢	H12. 5. 30
大澤 哲夫	H12. 5. 30	鈴木 光彦	H12. 5. 30	菱川 善夫	H12. 5. 30
小野 規矩夫	H12. 5. 30	鈴木 八駿郎	H12. 5. 30	平澤 秀和	H12. 5. 30
笠井 嗣夫	H12. 5. 30	高野 斗志美	H12. 5. 30	藤岡 郷子	H12. 5. 30
笠原 肇	H12. 5. 30	高橋 明雄	H12. 5. 30	前川 公美夫	H12. 5. 30
加藤 多一	H12. 5. 30	武井 静夫	H12. 5. 30	光城 健悦	H12. 5. 30
金丸 義昭	H12. 5. 30	立花 峰夫	H12. 5. 30	南 利一	H12. 5. 30
金箱 戈止夫	H12. 5. 30	田中 和夫	H12. 5. 30	宮田 黄李夫	H12. 5. 30
河 草之介	H12. 5. 30	田中 厚一	H12. 5. 30	森 一生	H12. 5. 30
菊地 慶一	H12. 5. 30	谷 暎子	H12. 5. 30	八子 政信	H12. 5. 30
工藤 正廣	H12. 5. 30	千葉 宣一	H12. 5. 30	藪 禎子	H12. 5. 30
倉島 齊	H12. 5. 30	藤堂 志津子	H12. 5. 30	山下 和章	H12. 5. 30
後藤 軒太郎	H12. 5. 30	時田 則雄	H12. 5. 30	山本 丞	H12. 5. 30
西條 正人	H12. 5. 30	富田 正一	H12. 5. 30	吉田 秋陽	H12. 5. 30
斎藤 一郎	H12. 5. 30	鳥居 省三	H12. 5. 30	鷺谷 峰雄	H12. 5. 30
斎藤 征義	H12. 5. 30	中澤 千磨夫	H12. 5. 30	和田 由美	H12. 5. 30

(注) 死去 高山亮二 H13. 10. 17

園田夢蒼花 H13. 6. 1 平山廣 H13. 8. 3

(注) 専務理事は空席

## ■専門委員会構成一覧

### <収集資料選定評価専門委員会>

氏名	所属等
神谷忠孝	理事(文学研究)
木村敏男	“(俳句)
永井浩	“(詩)

### <運営検討委員会>

氏名	所属等
河邨文一郎	副理事長(詩)
朝倉賢	理事(小説、シナリオ)
工藤欣彌	“(小説)
谷口明雄	“(俳句)
西條正人	評議員(会社役員)

### <企画検討委員会>

氏名	所属等
園田夢蒼花	副理事長(俳句)
神谷忠孝	理事(文学研究)
原子修	“(詩)
加藤多一	評議員(児童文学)
工藤正廣	“(外国文学)
柴村紀代	“(児童文学)
笠井嗣夫	“(詩・評論)
芥藤征義	“(詩)

氏名	所属等
鈴木光彦	評議員(俳句)
立花峰夫	“(文学研究)
谷暎子	“(児童文学)
前川公美夫	“(文学研究)
森一生	“(演劇)
藪禎子	“(文学研究)
吉田秋陽	“(短歌)

## ■職員名簿(平成12年4月1日現在)

職名	氏名
館長(財団副理事長)	小杉捷七
副館長(財団常務理事)	安藤孝次郎
管理課長	桑原拓
主査	横浜隆志
主事	坂野透
事業課長	平原一良
主査	青柳文吉
主任	原田英明
司書	小川靖子
主任	宮坂頌子

職名	氏名
主任	岡本茂子
主任	丹伊田範子
主事	成田麻衣子
主事	高橋明子
主事	松尾文子
主事	関田千鶴

退職 高橋明子 1月31日付

後任 安藤孝次郎 6月1日付

## ■ 諸会議・運営日誌 ■

- H13 4月21日(土) 映像作品鑑賞のつどい「姉妹」
- 4月27日(金) 運営検討委員会拡大会議**
- 4月28日(土) 企画展「映画ポスターにみる北海道の文学」開幕
- 5月3日(木) 映画上映会「大地の冬の仲間たち」他(4、6、13日も実施)
- 5月20日(日) 文芸講演会「北海道とフェリーニ」(四方田犬彦)
- 5月22日(火) 高橋揆一郎氏ビデオ収録
- 5月26日(土) 文学館ウィークエンド・カレッジ開講
- 5月31日(木) 理事会・評議員会**
- 6月3日(日) 映像作品鑑賞のつどい「氷雪の門」
- 6月8日(金) 拡大運営検討委員会**
- 6月10日(日) ウィークエンド・カレッジ公開講座「20世紀の映像表現」(中澤千磨夫)
- 6月29日(金) 拡大運営検討委員会**
- 6月30日(土) 特別企画展「夢の世界のおくりもの～アンデルセン絵本・原画展～」開幕(8月5日まで)
- ウィークエンド・カレッジ俳句吟行(辻脇系一)
- 7月7日(土) 文芸セミナー「人魚をめぐる」(高橋宣勝)
- 7月8日(日) 児童文化フォーラム「現代に生きるアンデルセンの心」  
(角野栄子、佐藤宗子、押野武志、柴村紀代)
- 7月14日(土) 映画「百合祭」上映会(浜野佐知、桃谷方子、吉行和子)
- 7月15日(日) ウィークエンド・カレッジ公開講座「マイノリティの言語と文化」(津曲敏郎)
- 7月20日(金) 馬頭琴と朗読によるサンクンガーデン・コンサート(嵯峨治彦)
- 7月22日(日) ウィークエンド・カレッジ公開講座「風の王・砂澤ビッキをめぐる」(柴橋伴太)
- 7月24日(火) 映画上映会「赤いくつ」他(26、31日も実施)
- 8月3日(金) 拡大運営検討会議**
- 8月7日(火) 夏のファミリー文学館(10日まで)
- 8月21日(火) 企画検討委員会
- 8月25日(土) 特別企画展「100年目の小熊秀雄～20世紀詩のアヴァンギャルド～」開幕(10月8日まで)
- ウィークエンド・カレッジ公開講座「インターネットとアメリカ現代詩」(野坂政司)
- 9月5日(水) 拡大運営検討委員会**



- 9月9日(日) ウィークエンド・カレッジ俳句吟行(辻脇系一)
- 9月11日(火) 博物館学芸員実習(21日まで)
- 9月15日(土) 文芸講演会『『大正再考』～〈菊地寛〉という回路～』(日高昭二)
- 10月6日(土) 小熊秀雄を語るつどい
- 10月7日(日) 映像鑑賞のつどい「地の涯に生きるもの」
- 10月27日(土) 「占領下の子ども文化〈1945～1949〉展」開幕(11月18日まで)
- 11月1日(木) 文化週間(7日まで)
- 11月3日(土) 文芸セミナー「占領検閲下の児童出版物」(谷暎子・宮本大人)
- 11月27日(火) 企画検討委員会**
- 12月1日(土) 企画展「賢治を彫る～畑中純の版画世界～」開幕(16日まで)
- 12月14日(金) 資料収集選定評価委員会**
- 12月22日(土) ロビーコンサート「お話とチェンバロ演奏」(木村雅信)
- H14 **1月11日(金) 拡大運営検討委員会**
- 1月12日(土) 冬休みファミリー文学館「真冬のドキドキ展示室」開幕(27日まで)  
ウィークエンド・カレッジ公開講座「マイノリティの言語と文化Ⅰ」(工藤正廣)
- 1月16日(水) 「言葉」ワークショップ(池田一臣)
- 1月17日(木) 企画検討委員会**
- 1月19日(土) 文芸セミナー「北辺に生きる」(菅原政雄)
- 1月26日(土) ウィークエンド・カレッジ川柳創作講座(斉藤大雄)
- 2月17日(日) 映像鑑賞のつどい「書を捨てよ町へ出よう」
- 2月23日(土) ウィークエンド・カレッジ公開講座「マイノリティの言語と文化Ⅱ」(青柳文吉)
- 3月8日(金) 運営検討委員会**
- 3月16日(土) 企画展「Visual Poetry 2002 in 札幌 +」開幕(4月7日まで)  
文芸セミナー「〈視る詩〉への招待」(平原一良)
- 理事会・評議員会**
- 3月23日(木) ウィークエンド・カレッジ公開講座「インターネットと文学」(野坂政司)

## <付録>

### 北海道立文学館利用規則

北海道教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第14条第1項並びに第23条第1号及び第12号の規定に基づき、この教育委員会規則をここに制定する。

#### （趣旨）

第1条 北海道立文学館の利用については、法令等に定めるもののほか、この教育委員会規則の定めるところによる。

#### （文学館の目的）

第1条の2 北海道立文学館（以下「文学館」という。）は、文学に関する書籍、原稿、書簡、文献、写真その他の資料及び文学者の遺品等（以下「文学資料」という。）を収集し、保存し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする。

#### （文学館の事業）

第1条の3 文学館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 1 文学資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 文学館が収集した文学資料を閲覧に供すること。
- 3 文学に関する展覧会、講演会、講座、映画鑑賞会その他の催し（以下「文学に関する催し」という。）を開催し、及び他の行うそれらの催しに協力すること。
- 4 一般公衆に対して、文学資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- 5 特別展示室又は講堂（以下「特別展示室等」という。）を文学に関する催しの利用に供すること。
- 6 文学及び文学資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 7 文学資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと。
- 8 文学に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書を作成し、及び配布すること。
- 9 他の文学館、図書館、美術館、博物館、研究機関等と緊密に連携し、及び協力し、刊行物及び情報の交換、文学資料の相互貸借等を行うこと。
- 10 地域における学校、図書館、公民館等の教育又は文化に関する諸施設が行う文学に関する活動を援助すること。
- 11 その他文学館の目的を達成するために必要な事業

#### （開館時間）

第2条 文学館の開館時間は、午前10時から 午後5時までとする。

2 文学館の管理運営上特別の必要があるとき又は非常変災その他急迫の事情があるときは、教育長は、臨時に、前項の開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により開館時間を変更したときは、教育長は、その旨を文学館に掲示しなければならない。

(休館日)

第3条 文学館は、次に掲げる日には休館する。

1 月曜日

ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後において、その日に最も近い休日でない日。

2 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで

2 文学館の管理運営上特別の必要があるときは、教育長は、前項に規定する休館日に開館することができる。

(臨時休館)

第4条 前条第1項に定めるもののほか、文学館の管理運営上特別の必要があるとき又は非常変災その他急迫の事情があるときは、教育長は、臨時に、休館することができる。

2 第2条第3項の規定は、前項の規定により臨時に休館する場合について準用する。

(入館の制限)

第5条 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれがある者に対しては、教育長は、入館を断ることができる。

(入館者の遵守事項)

第6条 入館者は、文学館の利用につき、この規則及び教育長の指示に従うほか、特に次に掲げる事項を遵守しなければならない。

1 建物、附属設備又は文学館資料（文学館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。以下同じ。）を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

2 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

3 指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2 入館者が前項の規定に違反し、かつ、文学館の管理運営上支障があると認めるときは、教育長は、当該入館者を退館させることができる。

(入館の細目)

第7条 前2条に定めるもののほか、入館に関し必要な事項は、教育長が定める。

(観覧料の免除)

第8条 次に掲げる者が文学館における常設展示又は展覧会（特別企画によるものの展覧会を除く。）を観覧する場合は、その観覧料を免除する。

- 1 小学校の児童並びに中学校及び高等学校の生徒並びにこれらに準ずる者（特別展示を除く。）
  - 2 小学校の児童又は中学校の生徒を引率する校長又は教員
  - 3 盲学校、聾<sup>ろう</sup>学校及び養護学校の児童又は生徒の引率者
  - 4 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
  - 5 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者
  - 6 生活保護法（昭和25年法律第144号）による生活保護を受けている者
  - 7 児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者
  - 8 精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された者及びその引率者
  - 9 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第15条に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者
  - 10 65歳以上の者
  - 11 その他教育長が前各号に準ずる者と認めるもの
- 2 前項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、同項各号に該当する者であることを証する書面を教育長に掲示しなければならない。
  - 3 第1項に該当する場合を除き、観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（別記第1号様式）を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。
  - 4 教育長は、前項の規定により観覧料を免除するときは、観覧料免除書（別記第2号様式）を交付するものとする。

（特別展示室等の利用の承認）

第9条 文学に関する催しを行うため、特別展示室等を利用しようとする者は、あらかじめ、特別展示室等利用申請書（別記第3号様式）を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

- 2 教育長は、前項の規定により特別展示室等の利用を承認したときは、特別展示室等利用承認書（別記第4号様式）を交付するものとする。

（特別展示室等の利用の不承認）

第10条 教育長は、前条第1項の申請が次のいずれかに該当すると認める場合は、その利用を承認しないものとする。

- 1 利用の目的が文学館の目的に沿わないとき。

- 2 文学館の秩序を乱すおそれがあるとき。
  - 3 文学に関する催しの料金が1人につき、1,350円を超えるとき。
  - 4 その他文学館の管理運営上支障があるとき。
- 2 教育長は、前項の規定により特別展示室等の利用を承認しないときは、申請者に対し、書面により、その旨を通知するものとする。

(特別展示室等の利用の承認の取消等)

第11条 教育長は、特別展示室等の利用の承認を受けた者（以下「利用者」という。）が次のいずれかに該当すると認める場合は、その承認を取り消し、又はその利用を制限し、若しくは停止することができる。

- 1 利用の申請に偽りがあったとき。
- 2 この教育委員会規則に違反したとき。
- 3 故意又は重大な過失により施設設備を破損し、又は滅失したとき。
- 4 その他文学館の管理運営上支障があるとき。

(施設設備の変更の禁止)

第12条 利用者は、特別展示室等の利用において、その施設設備に特別な設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ、教育長の承認を受けたときは、この限りでない。

(原状回復の義務)

第13条 利用者は、特別展示室等の利用を終了したときは、その利用に係る施設設備を原状に回復しなければならない。第11条の規定により利用の承認を取り消され、又は利用を制限され、若しくは停止されたときも、同じとする。

(使用料の免除)

第13条の2 特別展示室等の利用が次のいずれかに該当する場合はその使用料の免除を受けることができる。

- 1 道立文学館との共催により開催する文学に関する催しのため利用するとき。
- 2 その他教育長が必要と認めるとき。
- 2 前項の規定により使用料の免除を受けようとする者は、あらかじめ、使用料免除申請書（別記第4号様式の2）を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。
- 3 教育長は、第1項の規定により使用料を免除するときは、申請者に対し、使用料免除書（別記第4号様式の3）を交付しなければならない。
- 4 教育長は、使用料を免除しないときは、申請者に対し、書面により、その旨を通知しなければならない。

(文学館資料の閲覧)

第14条 文学館資料（文学館が他から借り受けたものを除く。第2項、第4項及び次条から第19条までの規定

において同じ。)を閲覧しようとする者は、あらかじめ、文学館資料閲覧申込書(別記第5号様式)を教育長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、保存対策上特別の取扱いを要する文学館資料(以下「特別資料」という。)を閲覧しようとする者は、あらかじめ、特別資料閲覧申請書(別記第6号様式)を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 教育長は、前項の規定により特別資料の閲覧を承認したときは、特別資料閲覧承認書(別記第7号様式)を交付するものとする。

4 文学館資料は、所定の場所で閲覧しなければならない。

(閲覧の制限)

第15条 この教育委員会規則その他の規程に違反した者及び教育長の指示に従わない者に対しては、教育長は、文学館資料の閲覧を禁止することができる。

(特別利用の承認等)

第16条 文学館資料の撮影、複写又は模造(以下「特別利用」という。)を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書(別記第8号様式)を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 教育長は、前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書(別記第9号様式)を交付するものとする。

3 特別利用は、教育長の指示に従って行わなければならない。

4 教育長は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

(撮影品等の刊行等の承認)

第17条 文学館資料を撮影し、複写し又は模造したもの(以下「撮影品等」という。)を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、撮影品等使用申請書(別記第10号様式)を教育長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 教育長は、前項の規定により撮影品等の刊行等を承認したときは、撮影品等使用承認書(別記第11号様式)を交付するものとする。

(文学館資料の貸出し)

第18条 文学館資料は、次に掲げる者に対して貸出しをすることができる。

1 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部大臣の指定した博物館に相当する施設の長

2 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館の長

3 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館の長

- 4 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校の長
  - 5 その他教育長が適当と認める者
- 2 前項の規定により貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、文学資料貸出申請書（別記第12号様式）を教育長に提出し、承認を受けなければならない。
  - 3 教育長は、前2項の規定により文学館資料の貸出しを承認したときは、文学資料貸出承認書（別記第13号様式）を交付するものとする。

（貸出期間等）

第19条 文学館資料の貸出期間は、30日以内とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、教育長は、特に必要と認めたときは、文学館資料の貸出期間を延長することができる。
- 3 教育長は、必要があるときは、貸出期間中であっても、文学館資料の返還を求めることができる。

（破損等の責任）

第20条 文学館の入館者、特別展示室等の利用者、文学館資料の閲覧者若しくは特別利用を行う者又は文学館資料の貸出しを受けた者が、その施設設備又は文学館資料を破損し、又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補則）

第21条 この教育委員会規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

（施行期日）

この教育委員会規則は、平成7年1月4日から施行する。

附 則

この教育委員会規則は、公布の日から施行する。

（様式は省略）





平成13年度年報

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

**北海道立文学館・(財)北海道文学館**

---

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号

TEL (011) 511-7655 FAX (011) 511-3266

[印刷：中西印刷株式会社]